

些高瀬神社

平成 31 年 1 月 1 日 http://www.takase.or.jp/ 撮影: 南部スタジオ



# 御代替わりの年 司

宮 藤 井

げます。

が書各位のご多幸をお祈り申し上敬者各位のご多幸をお祈り申し上敬者を位のご多幸をお祈り申し上明けましておめでとうございま

象があります。
に多くの災害が発生したという印の三十年を振り返りますと、本当の三十年を振り返りますと、本当の三十年を振り返りますが、こから新しい御代となりますが、こから新しい御代となりますが、これの領代 さに『災』という年でありまし国で大きな自然災害が頻発し、ま まり地震、台風、豪雨など日本全となりました。昨年は大雪から始 平成三十年を表す漢字は

その度に被災した地域は大変な 苦境をしたわけですが、そういう 苦境の中でも、略奪などの騒動が 無いばかりか配給所に整然と並ぶ 被災者の姿は世界から賞賛されま した。さらに全国からたくさんの 支援物資が届けられ、ボランティ ア活動に参加する希望者も殺到す ア活動に参加する希望者も殺到す

り、 りました。 それが当たり前の世の 中にな

民周知の通りであります。といれている。天皇陛下はこれまで常にことは国とに御出かけになられたことは国とに御出かけになられたことは国とに御出かけになられない、歩んでの御心で国民に寄り添い、歩んでです。天皇陛下はこれまで常にこ ように思いやる精神」という意味なわち「他人の心を自分のことの 「思いやり」ということです。すの身になって考えること、つまり ろ」のことで、「恕」とは、他人 忠実であること、 「忠恕」という言葉を挙げられま言葉として「論語」のなかにある天皇陛下が皇太子時代に好きな した。「忠」とは、自己の良心に つまり「まごこ

た、日本人の心の奥底に眠ってい 影響しているように思います。ま 的に行うようになったということ 陛下が身をもって示された、 .民がボランティア活動を積極 「忠恕」ということが大きく

> ないかと感じています。 を目覚めさせていただいたのでは ろ」と「思いやり」というDNA 明治天皇御製

しきしまの大和心のををしさは のことが起きた時にこそ、自ずから が日本の大和心の雄々しさは ことある時ぞあらはれにける 非常

幸福な社会になるでしょう。 る殺伐とした社会ではなくなり、 のような頻繁に事件や事故が起こ り、住みよい社会となって、現在前になると、人間関係が円満にな 他人を思 いやる心 が当たり

御代となりますように祈念して年い御代は国家国民にとって幸福な字になりますように、そして新し今年を表す漢字が『福』という 本年もどうぞ宜しくお願い申のご挨拶といたします。

> 皇紀二六七九年平成三十一(己亥) 年

名誉宮司 藤 プランナー 支配集殿 司 巫 権 禰 宜 宜 女 中 中 魚岸一 中橋ゆきな 長谷川宏幸 山 小倉南留美 山下翔 石渡和 河合正 田 直瑠 咲夢 璃 加 子美 菜 弥 登

# 例祭(大祭



名が参列されました。 九月十三日午前十時より例祭 氏子・崇敬者約七十

たが、大人の四人舞は初めてのれまで稚児の四人舞はありまし 安の舞」 祭典では、 の舞」が奉奏されました。こ続いて巫女による神楽「浦 宮司が祝詞を奏上

本殿の参列者に加え、更に約六 ことでした。 功霊殿例祭においては

を納され、参列者一同、英霊に を納され、参列者一同、英霊に (作・石川啄木)」、「立山を望 (体・石川啄木)」、「立山を望 は風会による「ふるさとの山 が風会による「ふるさとの山 感謝の誠心を捧げました。



巫女四人による「浦安の舞」

べき言葉はない。故郷の山故郷の岩手山に向かって言う は、ただただありがたいかぎ

## 天明日出でて驚き相揖すれば暮に山麓に投ずれば只雲煙夢に名山を見ること四十年 玉立せる群仙我が前に在

立山を望む」

国分青崖

のである。
が叶い、その感銘を詠んだも
夢にまでみた立山に漸く願い 七月一日立山登拝の折の作。『立山を望む』は、昭和九年



井波松風会による吟詠奉納

# 奉納吟詠詩文

### 「ふるさとの山」 (石川啄木)

ふるさとの山はありがたきかな ふるさとの山に向ひて言ふことなし ふるさとの山はありがたきかな ふるさとの山に向ひて言ふことなし



田

だより

田にて、献穀田奉 行われ、 より南砺市安室の献穀田前にて祭典は、九月十五日午後二時 E穀田奉耕者 金田雄介氏の斎(岩倉和弘会長) 主催により、井波地域中核農業士協議会 宮司祝詞奏上に続き、 抜穂祭を斎行しまし

> 参加され、全国の崇敬者と共に者の金田雄介 亜希世御夫妻が行われた「初穂曳」には、奉耕行として奉献されました。 十七 嘗祭でお供えされたほか、収穫された稲は、当神社 た神嘗祭に懸税 の町を練り歩きました。 伊勢の神宮で斎行され (カケチカラ) 社の新



シヒカリを丁寧に刈り取りまし

早乙女五名が黄金色に実ったコ

「初穂曳」に参加された 金田雄介 亜希世 御夫妻

# 里芋おはぎ茶会

す。 気たっぷりのおはぎと、心尽く 茶席と香煎席が設けられ、 を味わう茶会「第二十二回 里芋 地域特産の里芋を使ったおはぎ しの一服を味わうことができま おはぎ茶会」が行われました。 毎年好評のこの茶会では、 + 月二十五日、 南 砺 市 粘り

### 早乙女奉仕者 松金往川田蔵 稲垣

瑳咲さん 咲耶さん 奈樹さん 奈乙さん 楓さん 







本年はいなば農業協

合

(病波) (南砺福野)

### 杜 の にぎわ 剣道大会

錬さ 試合結果は次の通りです。

「第五十六回 奉納剣道大会」が九月十七日、敬老の日に開催「第五十六回 奉納剣道大会」が九月十七日、敬老の日に開催

(井波) (開&G (神波) (神波) (神波) 并福井井 波野波波

新嘗祭を斎行しました。

月二

十三日午前十

により

□ (**団体の部**)

- ツ少年団

并并庄井 波波川波 并城井城 波端波端

域中核農業士協議会 岩倉和弘者 金田雄介氏、白米を井波地者 金田雄介氏、白米を井波地安室)で収穫された玄米を奉耕安室)で収穫された玄米を奉耕です。当神社においても、氏子です。当神社においても、氏子 会長、 神前に奉納し、 しました。 <sup>7</sup>。当神社においても、氏子 その恵みに感謝するお祭り 収穫された新穀を神前に奉 白酒を岩﨑修稲作部長が 五穀豊穣に感謝

された篤農家の方々を表彰し、 献穀田奉耕者に感謝状と記念品 してご奉仕いただきました。 石丸正明常勤監事に、 祭典終了後、農業発展に寄与 参向使 协同組令 ||使と

> 宇森 川河 傳信 治明 殿殿

# 當祭(大祭

献穀の儀

【献穀田 金田 |奉耕者] 雄介

殿

# **〜越中五箇山民謡〜**

民謡の奉納演奏が行われ しました。祭典終了後、南砺平高等学校 郷土芸 南砺平高等学校 郷土芸 時より「月を愛で収穫に九月二十四日、午後五

楽しく有意義なひと時ををがある時間もありました。をの後、郷土芸能部員のをはいる。 やお神酒とともに秋の風たりした後は、月見団子らしい演奏を見たり聴い やお神酒とともに秋の 過しました。また、素晴 楽器「こきりこ」や「さ れたほか、参列者に民俗 屋節」など四曲が奉納さ 「こきりこ節」や「麦



十一月 十一月二十三日 十二月二十三日 : 十十十十九九八八七七 月月月月月月月月月月月 **月**月月月月 

◎毎月一日・十三日 ◎毎月十三日 交通安全祈願 月次祭

情を堪能頂きました。

### 藤 井 秀 弘 宮司 社 頭 講 話 集 編 集 後 記

られている文章です。 念して刊行された『藤井秀弘宮 秀弘前宮司の名誉宮司就任を記 この裏面の編集後記は、 社頭講話集』の巻末に添え 藤井

刊行) 宮 十年一月刊行)まで藤井秀弘宮 れました。 会」に合わせて限定数が刊行さ 司が書かれた「社頭講話」が収 月十七日に富山市で開催された めてあり、 名誉宮司・宮司就任を祝う 同講話集は、社報 の創刊号(平成十六年一月 から、五十六号(平成三 昨年の平成三十年三 『越中一

す。 親子の話などが述べられていま 宮司が書いた社頭講話の内容や 完成の逸話から父である秀弘前 秀嗣宮司によるもので、 編集後記は、後を継いだ藤井 創刊号

幸いです。

か。 記には、親を想う子の心が記さ でいただいては如何でしょう れています。これを皆様に読ん の石岡敬夫氏から「この編集後 編集後記を読まれた責任役員 」とご提案頂きました。

の機会に添付致しました。 もあり、ご提案をいただいたこ 全てにお届け出来なかったこと 今まで宮司講話を拝読頂きま 『講話集』の部数に限度が有 社報を通読されている皆様

綴じておいていただければ として、同記事をご一読い ただき、保存用ファイルに した皆様にも一つの区切り



「社頭講話集」



SALES AND AND ADDRESS OF THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NOT THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NAMED IN COLUMN TWO IS NOT THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NAMED IN COLUMN TWO IS NAM PRABE AND



「名誉宮司・宮司就任を祝う会」於 富山 (ANAクラウンプラザホテル富山)

### 編集後記

ためて感謝申し上げ、 号を拝受致しました。これまで もって勇退、平成三十年元旦付 事に奉仕し、十一月三十日付を が年内最終の大祭で、これを無 誕生月でもある十一月の新嘗祭 お願い申し上げます。 るご厚誼を賜りますよう宜しく お世話になりました皆様にあら にて神社本庁より名誉宮司の称 奉仕して退くことにしました。 の大祭(祈年祭・春季祭・祈年 目である米寿が潮時と、この年 で満八十八歳を迎え、人生の節 た。平成二十九年十一月十一日 宮司を退任するつもりでいまし 父は数年前 例祭・新嘗祭)を全てご から高齢を理由に 今後更な

した。社報発行は永年の懸案事月一日号で第五十六号となりまれ、十四年目にあたる本年の一さて、髙瀬神社社報『越中一さて、髙瀬神社社報『越中一

らうことになりました。 思っていること、また、氏子崇 の浦 まま、気の向くままに書いても 敬者の皆様に聞いてほしいこと 司が普段から考えていることや 話」というコーナーを設け、宮 戦苦闘の末、待望の創刊号が出 けて編集作業に取り掛かり、 項でありました。当時、 や伝えたいことなど、思いつく たり、まず、 来上がりました。この構成にあ 泰宏君が宮司の厳命をう 宮司の「社頭 権禰宜 悪 溝

今、読みかえしてみると本当に多岐にわたり書いてありまに多岐にわたり書いてありまいまた、自然から学んだ事柄出、また、自然から学んだ事柄出、また、自然から学んだ事柄出であった頃に経験したこと、更にあった頃に経験したこと、更にはテレビニュースや新聞記事にはテレビニュースや新聞記事にはテレビニュースや新聞記事にはテレビニュースや新聞記事がら感じたこと等々。宮司室の職上には常に宮司専用の原稿用机上には常に宮司専用の原稿用が高いてあり、いつも何かしたように思います。

て、「自然」についての記述が きをして、それをお金に換えて 生き方も良きにつけ悪しきにつ 多いようです。それゆえに父の 生に大きく影響を及ぼしてい 然から教えられたことが父の人 ます。自然の有難さや怖さ、 生活費に充てていたと聞いてい た、大東亜戦争後、祖父と炭焼 獣道を歩いて行きました。 かけ、山奥の神社へは長い長い ころから兼務神社のお祭りに出 ていただきました。父は子供の 任の機会にその思いを実現させ 言っておりましたので、宮司退 講話」を抜粋して本にしたいと ŧ

親子関係というのは難しいも に聞き入れられないし、行いも に聞き入れられないし、行いも す(わが家だけでしょうか)。 素直に受け入れられないし、行いも 素直に受け入れられないもので 素直に受け入れられないもので

> 母、 ださった皆様に感謝申し上げ、 これまで毎号楽しみに読んでく 甲斐もあったというものです。 また、氏子崇敬者の皆様に読ん 講話集の存在は、私と父の難 らったこと、共に過ごし、経験 祖父から聞いたこと、教えても 致します。 長くなりましたが、 でいただいて、何かしら感じて したことも書いてあるこの社 いただけたら、長く書いてきた いった世代をつなぐ大切な い関係を和らげ、祖父母、 「絆」になると思っています。 自分、そして息子、娘と あとがきと

副 藤井秀嗣

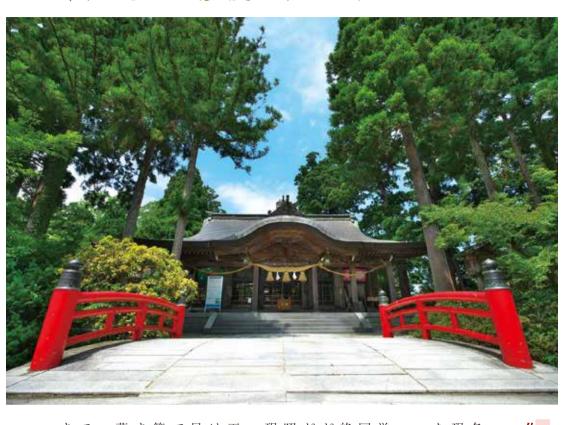
ではないかと感じています。け自然のままに過ごしてきたの

# 藤井秀弘宮司 社頭講話集

平成三十年三月

印刷 牧印刷株式会社発 行 越中一宮 髙瀬神社

### 越中一宮 髙瀬神社 御社殿屋根修復 銅板ご奉納のお願い



### 御社 殿屋根修復「銅板」ご奉納 の 1)

現在、この社格は無くなりましたが、当時、 各位の並々ならぬ熱誠をもって、 なることは大変名誉なことでした。来る平成三十五年 (二〇二三年)には昇格百年の節目の年を迎えます。 昇格後、国幣社に相応しい御社殿にすべく、関係者 大正十二年 (一九二三年)、 国幣社に昇格しました。 髙瀬神社は氏子崇敬 国幣社と

現在に至っております。昭和二十二年に御本殿が、翌二十三年に拝殿が完成し、 が中止されました。往古の面影は消滅した状況でした 終了した昭和二十年八月に終戦となり、国費による工事 国の主導による御造営工事が始まりました。基礎工事が 挙げて新社殿建設に取り組み、念願叶って昭和十七年より 各方面より浄財や樹齢数百年の銘木が寄進され、

葺き替え工事に取りかかる予定です。 籠もるご奉賛をいただき、この事業を完成させたく存じ ております。これまでの例にならい、再び各位の誠心 早々に葺き替え工事を行わなければならない事態となっ 五十年が経過した今日、 は酸性雨による腐食や経年による傷みが進んでおり、 つきましては、 昭和四十八年に檜皮葺屋根から銅板に葺き替えられて どうぞ「葺き替え用銅板」 「葺き替え用銅板」の数が揃い次第、 本事業の趣旨をご理解いただきまし 御本殿を始めとする御社殿の屋根

ますようお願い申し上げます。 のご奉納にご協力下さい

越中一宮髙瀬神社 宮司 藤井

# 御社殿屋根修復 銅板ご奉納のお願

替工事を行います。ご参拝の記念として葺き替え用の銅板奉納に 損傷の著しい本殿をはじめ御社殿全体、 ご協力下さいますようお願い申し上げます。 髙瀬神社は平成三十五年(二〇二三年) 功霊殿拝殿屋根の銅板葺 の完成を目指 劣化

# 奉納金額 一枚 二千円

※銅板には皆様のお名前や、 お願い事をご記入いただけます。



銅板記入例

# 記念品「奉賛之章・心魂



奉賛之章「心魂」

賛の証として授与致します。 楠の木で作った「心魂」をご奉

御社殿屋根銅板葺き替え 付属飾り金具改修工事

本殿、幣殿、拝殿、 回廊、

功霊殿拝殿」

ê

※平成三十一年より工事資金の募金を実施する予定です。

銅板屋根改修工事……平成三十五年 秋 竣功予定 銅板ご奉納実施期間…平成 三十 年より三ヶ年









五十年を経て、劣化損傷の著しい銅板葺屋根

### 髙 瀬 神社氏子祭り

### 名誉宮司 宮司 就 任を祝う会

が心配された中での巡幸となり 供神輿の巡幸を行いました。雨 ましたが、無事に氏子区域を練 十月七日、 村祭にあわせて子 鳴クラブ」の奏の雅楽団体「鳳 午後五時からの しく祭典を斎行 歩きました。 賑々

会の内に執り行われまし 鼓・民謡が花を添え、盛

嶋治長高瀬区長より開会の辞が あり、石岡敬夫責任役員より発 れ約九十名が出席しました。中 起人代表のご挨拶を頂いた後、 より氏子主催による「名誉宮司 宮司就任を祝う会」が開催さ 上記の祭典に続き、 午後六時

た。 祝いの調べとして、 役から記念品が贈 の皆様を中心にバイオリ 秀嗣宮司に藤井義雄相 藤井秀弘名誉宮司、 ン演奏・謡曲・日舞・太 祝宴では、 就任を祝福頂きまし 呈

た。この会を ご協賛を賜り たりご準備 開催するにあ 厚く御礼申し ました皆様に



上げます。

### 藤 翁 頌 徳 碑 竣 功 祓 式

施工されました。 み」と呼ばれる技法を用いて、 よるもので、土台は、 市庄川町の有限会社石森石材に を斎行しました。工事は、 を境内に移転し、 (父·藤井家六十六代) 翁(現宮司の曽 竣功清祓式 「野面積 <u>の</u> 宮 砺波 頌徳 司 で

ました。承知の上とはいえ、宮 神社と兼務することが許され 展を第一に考えた翁の強い う声もありましたが、神社の発 司を辞することについて、「な められ、大正十二年(一九二 子崇敬者と共に神社の発展に努 んという馬鹿なことを…」とい 秀一翁は、父の幸麿宮司、 しかし、国幣社宮司は、 )、国幣社昇格を果しました。 複数の兼務社を持つ翁は、 宮司を退くこととなり 氏

1合わせて翁の銅像が建てら(一九三七)九月十三日、例祭その功を称え、昭和十二年 除幕式が行われました。

工事の様子

漏らされ、悲しみと淋しさの混 ると、病床で「そうか」と一言 ませんでしたが、その旨が伝わ のことでは、動揺を顔に出され れる事となります。翁は、大抵 したが、 は、 った表情をされたそうです。 像の完成を大変喜ばれ 戦争が始まると供出さ





した。そして本年、 当時の尾崎定業宮司、 見届け、 からも末永く顕彰していくこと い場所へと移転が行われ、 者によりこの石碑が建立されま 終戦後、 翁は亡くなられます。 拝殿の完成を 御本殿に近 氏子崇敬

竣功清祓式

に及び更に碑を立つ 業大人の努力と崇敬者郷党ら 以て逝かる 昭和二十六年一月七十九才を むなきに至る も大東亜戦争の為に供出のや 和十二年九月銅像を建設せし 氏子ら大人の功を伝へむと昭 之か目的を達成せらる 財を捧け広く資金を募り遂に 後秀一大人は父の遺志を継き 幸麿大人は専心力を発され死 の協賛に依り社殿の造営成る て氏子を励まし東奔西走自ら 徳高く大正十二年国幣社に列 昇格に当り社家藤井 茲に宮司尾崎定 かくて大人は 宮として神 仍て

昭 二十七年四月 氏子敬白

### 平成31年 厄年·身祝一覧

(16-	<b>(厄牛)</b>							
	前 厄		本 厄		後 厄			
男	24歳	平成8年(子)	25歳	平成7年(亥)	26歳	平成6年(戌)		
	41歳	昭和54年(未)	42歳	昭和53年(午)	43歳	昭和52年(已)		
	*60歳	昭和35年(子)	*61歳	昭和34年(亥)	*62歳	昭和33年(戌)		
女	18歳	平成14年(午)	19歳	平成13年(巳)	20歳	平成12年(辰)		
	32歳	昭和63年(辰)	33歳	昭和62年(卯)	34歳	昭和61年(寅)		
	*36歳	昭和59年(子)	*37歳	昭和58年(亥)	*38歳	昭和57年(戌)		

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。 ※ \* …この年を厄とする地域もあります。

1201701	3/C/C-1				
	年齢	生まれ年			
還曆	61歳	昭和34年(亥)			
古希	70歳	昭和25年(寅)			
喜寿	77歳	昭和18年(未)			
傘寿	80歳	昭和15年(辰)			
米寿	88歳	昭和7年(申)			
卒寿	90歳	昭和5年(午)			
白寿	99歳	大正10年(酉)			
and the state of t					

※男女ともに祝います。

級生との「厄祓」を受け付けて

同

窓会や里帰りに合わ

せ、

同

月三日

午後三時斎行

同

級

生と厄

被

おります。

### 戌の日 (安産祈願)

1月1・13・25日

2月6・18日

3月2・14・26日

4月7・19日

5月1・13・25日

6月6・18・30日

腹帯のお祓いも行いますので ご持参下さい。



祈祷料

五千円より

ご志納願います。

期

間

節分まで

午前九時から 二月三日

午後四時三十分まで

さ

是非ご参列下 族お揃いで、 すので、 飴を授与しま には福豆・福 祭典終了後

でご祈祷をお受け下さい。 年頭にあたり、ご友人とお揃

### ご案内

### 歯固め石

け下さい。 歯固め石」を授与しております。 ご希望の方は社務所へお声が 当神社では、 お食い 初めの石

※ 「歯固めの石」とは

全国一の官めぐり

ガイドブック

| OOO用





御朱印帳(小)

三〇〇円

御朱印帳(大)

IIIIOO用

為のものです。時間をかけて自 てみてはいかがでしょうか。 分流に全国の「一の宮」を巡っ 参拝し、各神社にお祀りされて あります。平安時代、 いる大神様の御神徳をいただく 古くから崇敬を集め、 御朱印」はこのような神社を として定められました。 由緒正しい神社が「 の宮」は全国に約 各地域で 神位も高 〇〇社

ご家

### 全国一の宮めぐり」を てみませんか?

# 分祭

# 節

# )豆まき)

巾着袋

五〇〇円

※雲立涌柄(桃色)と青海波柄(青色)の |種類ご用意しています。

新ガイドブック

**一〇〇〇円** 

銅板を御奉納頂きました皆様に厚く御礼申しあげます。

石藤井藤梅稗渡渡高西末岡宮伊相旬大橘湯齊田津津津 旬西西梅西中岡高岩竹本井口井島田辺辺木村永 下澤澤穴橋 朝藤畑田田田笹笹島島澤野田部松倉山 真 外 田 チ順 島島 外 いい 本井口井島出辺辺へ灯水 「倖倖八順 物際畑田出出島島 田 5 日 い 点 外 日 5 順 島島 外 日 い 子順 島島 製真茂 拓司一幸博ず 郎江輔夫夫子子好一剛男望樹樹樹金誠子仁子郎黎代淳幸作実太進磨雄輝子司み 1 治所

務 B 所 h

島 ㈱杉岩富中林多多藤藤藤金金北木藤吉河松水宮砂今松田佐山山森守山小田藤藤北本倉田川 谷谷田田田田田島下井田内本木川田井井近々田森田山本島 森森国

吉東東永石山長堀佐佐佐澤入松杉青山稲絵中渡吉石道小前馳谷萩安荒前得関西田井 原川下谷 々々々村江浦村山口垣文田辺江 淵西田 村谷田山田能岡田 惠川美木木木 東京 安田 畠 東東 惣 八 裕 東京 本本本 惠川美木木木 東川美木木木 且真誠秀裕美規保 智亜博 秀洋哲直晴屋紀信 哲孝昭一修有美慶美達浩 信禧一樹成子子子光秋衣之誠和子朗人彦登子樹陸㈱志明夫郎基子子一幸栄光潔

花宮村宮土小細細大喜島池久得大川津若喜谷一松松柴大本田野本屋嵐田田木沢崎田保能谷口川林多井公田田田井 久 一松松柴大南前山岡川坂坂坂坂日 真融千代美元静良信建政美洋達正浩 敏俊智業晃昭敏昌靖昭麻里貴良望光正勝吾夫鶴子子子造人美子子平栄則哉武之夫和㈱明市男子男夫理佳子奈海子幸恵

大高中中中中藤川飛飛藤金淡中中島森㈱柴岡野大西島島堺柴石石社桐小林西伊西瀬村村村本辺田田田堂口根根田 北田本村矢尾田田井田黒黒本木西 頭勢 友祐健美 久 陸 信 秀太次一知健照桂高栄 早正康正仁康流佳勝昌外真和正綾比節一芳絢と由久幸雄朗郎郎子三治子志治勇苗典子美子明通一彦平男美弘弘子古子弘勝生み紀乃夫 企

画

奥森森金藤斉星梅上塚海大大松牧石森森柳久飯東伊豊柄御山山片堀山谷岩林角 田田田谷本藤野野田原老塚塚本野田 原保田 藤川崎旅本本山内本井崎 田 田田田田 (本本) 日本 (本本) 日本 (本本) 日本 (本本) 日本 (本本) 「国際 (本本) 」「国際 (本本) 「国際 (本本) 「国際 (本本) 」「国際 (本本) 「国際 (本本) 「国際 (本本) 」「国際 (本本) 」」「「国際 (本本) 」」「「国際 (本本) 」」「「国際 (本) 」」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」」「「国際 (本) 」」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」」「「国際 (本) 」」「「国際 (本) 」」」「「国際 (

> 本谷田田田田芳ズスト 裕堅昭信夕 健泰睦す征お孝和義一幸公真み外雄代孝昭輝春実司治夫弘公潔一昌子い雄り浩義尚郎礼太守江男貴子悦夫子枝花 ・ラスト

奉賛金高額奉納者芳名につきましては、

次号にてご紹介させて頂きます。

あなたの人生に、神社がある。 巻中高瀬神社 10

格爾市北京 松橋市北京 本場 本場 市 信哲 一也 殿殿

○「菊花」 氏 寺西 孝志

殿

氏 金田

奉耕者 井波中核農業士協議会 「**神饌米**」 岩倉 和弘 雄介 殿 殿 殿

「初穂米 大和 秀夫

「神社備

品

殿

傍田

昭治

殿

輪車

氏 子岩子 倉 勲 殿 殿 殿

納

進

殿

弘 一進 殿殿

「飛躍」

「干支

(亥)

南砺市山下

榮

殿



「さざ波」

氏一

大和彌壽夫

殿

一日章旗



「薫風」



「稜線」



川原 和夫 () 「木彫彫刻」 殿

企

大注連縄」

七張



「やすらぎ」

こども美術教室の受講生の皆さん大谷 弓子 殿

園 長 大谷美術学園 国山市古鍛冶町

「古代米」

小矢部市鴨嶋 小矢部市鴨嶋

殿

社報バックナンバー

当神社ホームページで



殿殿

社務所へご連絡下さい。 野 勝久 (順不同·敬称略

各種お問い合わせにつきましては、 (〇七六三) 八二一〇九三二

[表紙写真] ご覧頂けます。

干支(亥)大絵馬と 大谷美術学園の皆さん

魚

### 結びの杜の神前式









日常の喧噪を隔てる境内で、参進の儀にはじまり 社殿に響き渡る雅楽の調べのなか、厳かな神前式が叶う 大国様の「結び」の御神徳により、両家の絆も強く結ばれる

一日一組のプライベート空間

◇◇新参集殿◇◇

すべては一組の新たな夫婦の幸福のために













只今ご予約受付中

あなたの人生に、神社がある。 世中高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291 ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社

Q 検索